

今日の説教のポイント<エフェソの信徒への手紙2章11~22節>

①今、最も読まれるべき聖書の箇所がここ！

「御自分の肉において敵意という隔ての壁を取り壊し」(14)、「こうしてキリストは、双方を御自分において一人の新しい人造り上げて平和を実現し」(15)、「従って、あなたがたはもはや、外国人でも寄留者でもなく、聖なる民に属する者、神の家族であり」(19)。あちこちで敵意が満ち、争いが止まず、難民が増加し続けている今の世界。今日の箇所に出て来るこれらの聖句は、今のこの世界にとって計り知れないほど大きな意味を持っています。この混乱に終止符を打つ内容が示されているからです(参照：『私はパレスチナ人クリスチャン』新教出版社)。

②出だしの「だから」に注目。つまり、その前に書かれていたことは？

今日の箇所の出だしは「だから」です。その直前に書かれていたことは、「なぜなら、わたしたちは神に造られたものであり、しかも、神が前もって準備してくださった善い業のために、キリスト・イエスにおいて造られたからです。わたしたちは、その善い業を行って歩むのです」(10)、です。1) 私たちは神に造られた、2) 善い業をなすために造られた、3) それはキリストによってなされた、のです。重要な一節です。私たちの生きる根拠と目標がここにはっきり示されているからです！ただ「神様によって造られた」とだけ言われているわけではありません。「イエス・キリストにおいて」(6,7,10,13,21)「新しく創造された者」(コリントⅡ 5:17)が「善い業」をなすのです。その善い業こそが①で挙げた聖句の内容、すなわち、「敵意という隔ての壁を打ち壊し」「神の家族」を建てることなのです。

③この世の中で希望を持ち、神を知って生きて行く！

私たちは、このような神様の御計画を聖書から知らされました。よって、それまでは、「キリストとかかわりなく、イスラエルの民に属さず、約束を含む契約と関係なく、この世の中で希望を持たず、神を知らずに生きていました」(12)が、これからは違うのです！これからは、希望といっても単に自分が思い描く希望ではない、このような神様を知ったからこそ抱ける希望、つまり神様の希望を自分の希望として生きていけるのです！神の家族もまたその希望の内容の一つです。来週に続く。